

So good!

# 創宮

- ネパール マンダン・デウプール自治体との都市提携
- 若者に夢と希望を  
小澤グループ代表取締役  
会長・小澤辰矢氏
- 乳がんの早期発見へ

So good! vol.46



## マンダン・デウプール自治体との都市提携

令和7年3月23日、富士宮市はネパール マンダン・デウプール自治体と都市提携を締結しました。マンダン・デウプール自治体のトック・バハドゥル・ワイバ市長（写真左から2人目）と須藤秀忠富士宮市長は今後の交流に向けて固い握手を交わしました。

# ネパール マンダン・デウプール自治体との交流

～「神の山 世界遺産エベレスト」と「神の山 世界遺産富士山」世界遺産文化交流都市～

## 都市提携締結式



▲協定書に署名する両市長



▲マンダン・デウプール自治体庁舎入口では、関係者が総出で富士宮市訪問団をお出迎え



▲住民の皆さんが伝統的な舞を披露



▲締結式であいさつをする須藤市長



▲世界遺産文化交流親善大使の前田健志さんが尺八の演奏を披露



▲締結式の参加者

富士宮市は、令和7年3月23日にネパール バグマティ州カーブレパランチョーク郡マンドン・デウプール自治体を訪問し、世界遺産文化交流都市提携を結びました。

今回の「創宮」では、マンドン・デウプール自治体の紹介やこれまでの交流などをお知らせします。

## 現地での交流



▲富士宮北高校の生徒が集めた文房具の寄贈



▲富士根南小学校児童が描いたキッズゲルニカの寄贈



▲前田徹駐ネパール日本国大使(写真右)との会談



▲アルジュ・ラナ・デウバ外務大臣(写真右)との会談



▲バドリ・プラサド・パンディ文化・観光・民間航空大臣(写真右)との会談



▲マンドン・デウプール自治体主催の交流会

## マンドン・デウプール自治体はこんなまち



マンドン・デウプール自治体は、ネパールの首都・カトマンズの東、約30kmの位置にあるまちです。

人口:約31,000人(富士宮市の約1/4)

面積:約89km<sup>2</sup>(富士宮市の約1/3)

標高:約2,000m(毛無山の山頂と同じぐらい)

時差:-3時間15分



▲のどかな田園風景がひろがる街並み



▲バイクが交通手段として普及しています



▲民族衣装に身を包んだ人々



▲人懐っこい子どもたちは、カメラを向けると笑顔を返します

### コラム

## マンドン・デウプール自治体の「自治体」という呼び方について

ネパールの行政機構は、州、郡、自治体の3層構造です。日本の市町村がネパールの「自治体」にあたり、「自治体」は政府により「大都市」、「準都市」、「基礎自治体」の3つに区別されています。このため、「マンドン・デウプール“自治体”」という呼び方になります。



▲ネパールの首都・カトマンズは大都市に区分され、多くの車やバイクが行き交い、活気にあふれています。

## マンダン・デウプール自治体とのこれまでの交流



**令和4年10月1日～15日**

伊豆市在住の写真家・川口敏彦さん(現・富士宮市国際交流アドバイザー)が富士山環境交流プラザでエベレスト写真展を開催しました。同年10月8日にドゥルガ・バハドゥル・スベディ駐日ネパール大使がこの写真展を公式訪問したことが、マンダン・デウプール自治体との交流のきっかけとなりました。



**令和6年2月18日**

富士宮市国際交流協会(FAIR)主催の国際交流フェスティバル2024のオープニングセレモニーでスベディ駐日ネパール大使によるマンダン・デウプール自治体のプレゼンテーションが行われ、同自治体との友好都市提携の提案書が渡されました。



**令和6年10月21日**

マンダン・デウプール自治体のトック・バハドゥル・ワイバ市長とオンライン会談を行い、世界遺産文化交流都市提携の締結およびマンダン・デウプール自治体への訪問日について協議を行いました。



**令和7年1月21日～23日**

トック・バハドゥル・ワイバ市長(写真左から2人目)をはじめとする訪問団が富士宮市を訪問しました。翌22日、富士宮市とマンダン・デウプール自治体との都市提携の締結に関する覚書を締結し、3月に富士宮市がマンダン・デウプール自治体を訪問し、正式に都市提携を締結することになりました。

# 若者に夢と希望を

小澤グループ代表取締役会長 **小澤辰矢氏** × **須藤秀忠** 富士宮市長



富士宮市出身の小澤辰矢さん(写真左)は、高校中退後、自分の体一つで大人の世界に飛び込み、コンクリート打設の会社を設立しました。現在は小澤グループの代表取締役会長として、多忙な日々を送ります。自身の力で人生を切り開いてきた小澤会長に感銘を受けた市長が、対談を行いました。

## 須藤秀忠市長(以下、「市長」)

本日は大変お忙しい中、ありがとうございます。私が小澤さんのことを知ったのは、私の親族がきっかけです。親族が小澤さんと同級生であり、小澤さんの著書を紹介され、その内容にとっても感動し、ぜひ直接お会いして、お話をしたいと思っていました。

さっそくですが、小澤さんのこどもの頃のお話を聞かせていただけますか。

## 小澤辰矢会長(以下、「小澤会長」)

こどもの頃、白糸の滝で遊んだ思い出がありますが、家庭が複雑だったこともあり、あまり覚えていませんね。高校時代はアルバイトでお小遣いを稼ぐのに夢中になっていました。昔は国道139号沿いにたくさんのガソリンスタンドがあり、そこで働かせてもらっていました。

## 市長

とても大変なこども時代だったんですね。実は私も、家庭の事情から小学生の頃は新聞配達を、中学生の時には牛乳配達をしていました。

## 小澤会長

こども時代はお金に苦労することもありましたが、親戚にガス屋さんの社長がいて、時々お小遣いをくれたりしていました。そんな気前の良さに触れて「将来は社長になりたい」と漠然と思っていました。

## 市長

こども時代から、とても具体的な将来の夢をお持ち

だったんですね。



▲お互いの境遇について語り合う

## 天職との出会い

### 小澤会長

その後のアルバイトで、歩合制を経験したことが転職機の一つかもしれません。自分なりに仕事のやり方を考えて仕事に取り組むということがとても面白く、やりがいを感じました。歩合制で働き、成果を出すことで、初めて自分の自信になりました。

### 市長

その後、天職でもある「コンクリート打設」のお仕事に出会ったんですね。この仕事を始めたきっかけは何だったのでしょうか。

### 小澤会長

仕事を探していた時に、一番良い給料だったのがコンクリート打設で、どんな仕事分らずに就職してしまいました(笑)。しかし、同僚たちと『こうすれば仕

事が早く終わる』『自分ならこんな風に仕事をする』といった話をする中で、同僚から「自分で(起業してこの仕事を)やってみなよ」と言われて、ピンときて会社を立ち上げました。こどもの頃に「社長になる」と考えていたことを実現してしまいましたね。

## 市長

起業後は事業を拡大されて、自社製品で特許も取得するなど、素晴らしいご活躍ですね。

## 小澤会長

がむしゃらに、気合いだけで仕事をやってきましたが、やっと経営者になれたのかな、と感じています。



▲真剣なまなざしで語る小澤会長

## 世の中のためにお金を使う

## 市長

著書の中の「稼いだお金で何をするのかが大切である」という言葉に感動し、小澤さんの人としての器の大きさを感じました。

## 小澤会長

私は政治にはあまり明るくないのですが、自分に何ができるかということ考えた時に、こどもや子孫のために、豊かな世の中にしてあげたいという思いがあります。

高級車や、高級腕時計を買ったことを自慢するのではなく、こども達の施設や、世の中のため人のためにお金を使ったことを誇れるような世界にしていきたいですね。私の夢は、日本一の児童養護施設を造ることです。

## 市長

それは素晴らしい夢ですね。ぜひ、がんばってください。

## 変わらない「想い」が原動力

## 市長

現在、小澤さんは地元を離れて過ごされていますが、地元を離れて、富士宮市はどのように小澤さんの目に映っていますか。

## 小澤会長

テレビで富士宮やきそばのことが流れた時には、市内にたくさんあったやきそば屋さんのことを思い出します。富士山も世界遺産になり、自宅や職場などで富士宮市の名前を耳にすると、懐かしさを感じます。

## 市長

小澤さんは学歴や親の七光りなどではなく、ご自身の力で人生を切り開いて来られました。これからの未来を担うこどもたちへメッセージをいただけないでしょうか。

## 小澤会長

大切なことは、自分の中に強い目標や、想いを見つけることだと思っています。その想いがあれば、困難にぶつかっても、ぶれることなく、前に突き進むことができます。そういった想いを見つけてほしいですね。

## 市長

小澤さんの原動力は、「前進あるのみ」という想いなのでしょう。小澤さんが未来へ向かって突き進むその姿は、私たちにとって頼もしく、そして誇りに感じます。これからのご活躍を楽しみにしています。本日はありがとうございました。



▲小澤会長が開発した「Dotocon」を市長に説明

### ●小澤 辰矢(おざわ たつや)さんプロフィール

昭和57年、富士宮市生まれ。高校中退後、16歳で上京し、さまざまな職を経験。コンクリートポンプ1台で24歳の時に独立し、小澤総業株式会社を設立。

その後、自社開発の透水コンクリート「Dotcon」が国内外から大きな注目を集め、現在は小澤グループの会長として3社を束ねている。KADOKAWAより初の自叙書「テッペン、獲ろうか。」を出版。

小澤グループ

FUN TO WORK  
OZAWA  
小澤総業  
PUMP MAN



小澤グループ

東京都あきる野市下代継25-3

042-519-9480

<https://www.ozawa-c.com/>

# 乳がんの早期発見へ

## 市立病院に乳腺外科標ぼう

令和7年4月1日に市立病院に新設された乳腺外科は、日本人女性の9人に1人が発症するといわれる「乳がん」の診療を専門に行っています。

市立病院では、これまで外科で乳がん手術を行っていました。しかし、年々増加する乳がん手術へ対応するため、専門的知識と高い技術を持つ常勤医師の尽力に加え、乳腺外科を標ぼうしたことで、市立病院に乳腺の専門部門があることが受診する人に分かりやすくなり、より適切な医療を提供できるようになりました。

令和4年度以降、年間約700件の乳がん検診、年間約100件弱の乳腺手術を行っています。令和5年度には、乳房エキスパンダーや乳房再建インプラントの乳房再建に関する施設基準を取得し、乳房再建術も可能になりました。

### 乳腺外科新設に尽力した医師の紹介



市立病院 副院長 小倉廣之 医師

### 【プロフィール】

平成5年 浜松医科大学卒  
同年 浜松医科大学附属病院研修医  
同年 磐田市立総合病院外科  
平成9年 富士宮市立病院外科  
平成11年 浜松医科大学大学院  
平成12年 がん専門施設(東京・癌研究所)へ国内留学  
平成15年 浜松医科大学附属病院 医員  
平成24年 浜松医科大学附属病院 科長  
令和4年 富士宮市立病院外科 科長  
令和5年 富士宮市立病院 診療部長  
令和7年 富士宮市立病院 副院長

### 【専門医・認定医等】

医学博士  
日本外科学会専門医・指導医  
日本乳癌学会乳腺専門医・指導医

### 乳腺外科の特色

乳腺外科は、小倉医師と乳腺を専攻している若手医師が中心に診療を行っています。

診療は、診断から手術、薬物療法や放射線療法、緩和療法と総合的に乳がんの治療を行います。初診から手術まで1ヵ月程度で対応できるため、乳がん患者に素早い医療の提供が可能になっています。最近では、静岡がんセンターや富士市の開業医からの紹介が増えています。

### 乳腺外科の今後の展望

診療に加え、ブレストアウェアネス(乳房を意識する習慣)の普及に力を入れていきます。また、乳がん検診のPRや、小中高校生を対象とした「がん教育」も行っていきます。

こどもの頃から、乳がんの早期発見・早期治療の意識を持ってもらい、「検診は受けて当たり前」と思えるような環境を作っていきます。



▲富士宮西高等学校でがんについて講演する小倉医師